

女性の Well-being 向上に向けた パラレルキャリア形成研究

とやま呉西圏域調査研究事業報告会

富山大学疫学健康政策学助教

立瀬剛志

背景

- 女性の活躍が女性の地域定着に必要不可欠であるという理解は広く共有されているが、いったい女性の活躍とはどのようなものを指すのかは、地域の多様性に左右されると考えられる。
- 一方、若い女性の地域定着は多くの地方都市に共通する課題である。流出の主な理由は、自分に適した職を求めるためとされている。しかし、就労を企業への就職という一側面で捉え、地域内の企業の理解と実践に期待するだけでは解決しない。そこで、広い意味での「働く場や機会の獲得」として様々な取組みも含めた複合的なキャリア形成支援の推進が望まれる。
- 特に女性においては単一キャリアではなく、家事や地域活動などを含む「パラレルキャリア」という視点で、個々の生活を豊かにする支援が課題となる。
- また、就職・結婚・子育て・家事・介護など生活史における自身のさまざまなキャリアが家庭というものに縛られた生活を余儀なくされる場合に、Well-beingを低下させやすく、地域での暮らしに生きづらさを感じる事となる。

目的

- 女性のキャリアを就職期・働き盛り期・子育て卒業期の3つの時間軸で捉え、それぞれどのような生活が自身のWell-beingに繋がるのかという視点で女性のキャリアを支援することが重要となる。
- そこで本研究では上記働き盛り期女性の地域定着を女性のWell-beingという視点から俯瞰し、「パラレルキャリア」とその支援方法をアクションリサーチという社会技術研究を通して明確にする。

方法 1

若い女性の地域定着に資する支援プログラムを開発し、実際に参加者を募集してそのプログラムの効果と地域展開の可能性の検証を行った。

- 具体的には地域での活動をスタートアップさせるためのプランを自身で作成するための、
 - 1) 提供する情報の整理、
 - 2) プロモーション作成ツールの開発、
 - 3) プログラムの開発と実証による総合的評価を行った。

方法 2

- 4)また今回の検証事業への参加者からの優良事例などを加え、今後女性のパラレルキャリア支援を呉西圏域の各市町村で地域定着のプログラムとして展開するための資源を整備した。
- 5)さらに、本プログラムを今後地域で有効的に展開するためのプログラムのプロモーション動画を作成した。

結果 1 : 提供する情報の整理

- 本研究によるアクションリサーチに先駆けパラレルキャリアの概念整理を行った。一般にパラレルキャリアという概念はセカンドジョブやサイドワークといった副業として理解されがちであるが、「ライフキャリアで複数の役割を持つ」というドラッガーが示した本来の意味に立ち返ることが、地域定着事業にとって重要であるという理解に至った。
- また新たな趣味や学びを持つというプロセスでは、単に個人の成長や生きがいを促すにとどまらず、地域におけるサードプレイス（家庭でもなく職場でもない第3の場所）を持つことで女性のウェルビーイングの向上を図る事をプログラム策定のコアコンセプトとし、検証されたプログラムを地域事業に埋め込むことが有効であると考えられた。

結果 1 : 提供する情報の整理

- 次にパラレルキャリア支援に必要なプログラムにおける課題を検証し、以下の4つの課題を抽出した。

パラレルキャリアに対する基本的な考え方とウェルビーイングとの関連に関する情報の提供

パラレルキャリアではサードプレイスという概念を中心に自身の地域でやりたいことを表現してもらうことの必要性
パラレルキャリアを企画する作業において自身の思考を統合する作成及び表現ツールの策定

パラレルキャリアを実際に実行するにあたって一人ではなく互いの計画を知り合った関係の中で互いのやりたいことを実行していくプラットフォームの必要性

結果 1 : 提供する情報の整理

- 4つの課題に対してワークショップを設定
の情報を講義にて提供する
サードプレイスを意識した事例を提示することで地域の中で
やりたいことを模索する道筋を示す
知識構成システム方法論を用いたパラレルキャリア作成ツ
ールを活用する
それぞれの企画を発表し互いのパラレルキャリア計画を共有
するという過程を体験するプログラムを通して、それぞれの
課題に対する参加者からの評価を得る

パラレルキャリアカフェ(全4回)

日	タイトル	内容	担当
11/28 (月)	女性のパラレルキャリアとウェルビーイング (みんなでサードプレイスを地域につくる)	パラレルキャリアの基本的な考え方と Well-beingとの関連について学ぶ	立瀬(60M)
		自己紹介	藤森(20M)
12/19 (月)	M(モヤモヤ) to W(わくわく) カフェ (あなたのプロモーションストーリーをつくらう)	自身の想いや思考を統合する知識 創造ツール作成法を学び活用する	中森(30M)
		ワーク	藤森(50M)
1/16 (月)	地域でつながる from M to W 紀行 (地域で暮らす時に大切にすることを考えよう)	サードプレイスを踏まえた地域のパラレ ルキャリア事例を学び活用する	野上・堀田・ 藤森(30M)
		ワーク(ストーリー深堀り)	藤森(50M)
2/6 (月)	M(モヤモヤ) to W(わくわく) カフェ (未来のためのプロモーションストーリー再考)	「発表会と講評」 地域でのパラレルキャリア展開に向け た表明と意見交換を行う	布施・炭谷 野上・澤武 (80M)

結果2：プロモーション作成ツールの開発

「知識総合化による行動宣言」

要約

- 三つの領域からの知識を総合して新しいアイデアを生み出す方法を紹介する。三つの領域からの知識とは、科学・実際の知識、認知・心理の知識、および社会・関係の知識である。紹介する知識総合のための手法は、人々の洞察力を高め、アイデアの創発を促進する知識構成システム方法論である。

キーワード：知識総合化、システム方法論、プロモーションストーリー

結果2：プロモーション作成ツールの開発

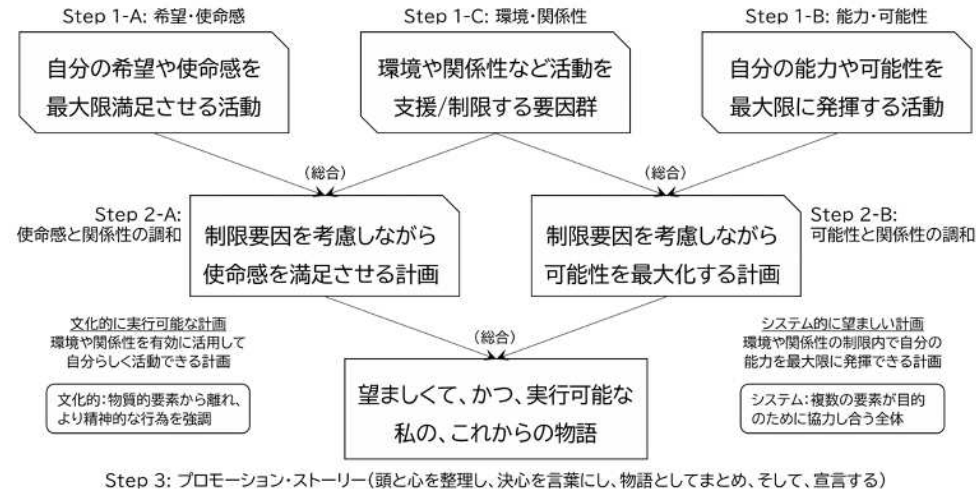
プロモーションストーリーの活用

- 現在、本業を持ちながら別の活動をすることが話題になっている。必ずしも報酬を得ることを目的とせず、スキルアップや自己実現を目指す活動も含まれる。ただし、本業（専業主婦を含む）と同様に取り組むことが望ましい。別の活動の例としては、別の企業での就労、自営業、創作活動、農業などがある。さらには、ボランティア活動や社会貢献活動も重要である。別の活動を見据えたスキルアップも考えられる。ここでは、本稿の提案をパラレルキャリアのプロモーションストーリー作成に応用することを考える。

結果2：プロモーション作成ツールの開発

理論的背景

- 「暗黙知と形式知は独立して存在するのではなく、相互に作用する連続体であるが、それらは対照的な性質を持っているため、効率的な相互変換プロセスには創造の弁証法的ダイナミクスが必要である」



結果2：プロモーション作成ツールの開発

- ここでは、科学・実際のストーリーをStep 1-B：自身の能力・可能性、認識・心理のストーリーをStep 1-A：自身の希望・使命感、社会・関係のストーリーをStep 1-C：環境・関係性としている。
- Step 1-Aにおいて、まず自分の希望・意志を明確にし、Step 1-Bにおいて自分の能力や可能性を冷静に見つめ、Step 1-Cにおいて、これらを支援してくれる人々や、妨げるになる障害を考慮する。
- Step 2-Aにおいて、制限要因を考慮しながら使命感を満足させる計画を作成し、Step 2-Bにおいて、制限要因を考慮しながら可能性を最大化する計画を作成する。前者は文化的に実行可能な計画、後者はシステムの望ましい計画である。最後のこれらを総合して、プロモーションストーリーを完成させる。

私の、これからの物語



Mission Statement

八尾町に生まれているのにおわら風の盆について知らない、関わっていないというコンプレックスを解消するため、胡弓の練習に取り組むことを宣言します。

検討の結果、自分には地縁も資格もないので職場の同僚に胡弓を教えてもらいおわら風の盆について勉強し、関わっていくことがふさわしいという結論になりました。

週2回は自主練習を行い、週1回は同僚に教えてもらい、練習を継続することで、2年で胡弓を披露できるまで上達することを目指します。

将来、福祉・介護施設等で、八尾町に出向いておわら風の盆を楽しむことができない方に、胡弓を披露して楽しんでもらいたい。

結果 3 : プログラムの開発と実証による総合的評価

- それぞれの課題に対する達成度を参加者（女性8名・男性1名）にカフェ終了後のアンケートにて調査した結果次のような理解を得た。

1. 第1回目パラレルキャリアカフェ学習項目評価

1問1 女性のウェルビーイングに必要な要素について理解できましたか。				
	大変できた	多少できた	あまりできなかった	できなかった
%	11.1	88.9	0.0	0.0
1問2 女性のパラレルキャリアの重要性について理解できましたか。				
	大変できた	多少できた	あまりできなかった	できなかった
%	22.2	77.8	0.0	0.0

自由記述回答

- パラレルキャリアについて基本が理解できて、わかりやすかった。
- パラレルキャリアという言葉は初めて聞いたので、今回、少し理解できて良かったです。
- 女性のWell-beingとパラレルキャリアのつながりが、若い女性が県外に多く転出する富山県の施策に深くつながる可能性が高いと感じた。
- 地域への活用と、自分たちの働く公務職場での活用の両面が期待できると感じた。公務職場の場合、心の病気で休んだり、仕事をやめたりする職員が近年とても多いので、その対策として何らかのヒントになるのではと思う。

結果 3 : プログラムの開発と実証による総合的評価

1. 第2回目パラレルキャリアカフェ学習項目評価

2問1 プロモーションストーリーがどのようなものか理解できましたか。				
	大変できた	多少できた	あまりできなかった	できなかった
%	33.3	50.0	16.7	0.0
2問2 プロモーションストーリーの作成方法について理解できましたか。				
	大変できた	多少できた	あまりできなかった	できなかった
%	33.3	50.0	16.7	0.0

自由記述回答

- ・パラレルキャリアを考える流れが構造的にわかりやすく説明されていたので、理解しやすかったです。
- ・自分のやりたいことが地域貢献につながるのかと思いましたが、やってみると意外と社会性があることが分かったので何とかすすめていけそうです。
- ・スタッフの方のお話が大変興味深いものでした。普段関わることのない方たちとお話することができ、楽しかったです。

結果 3 : プログラムの開発と実証による総合的評価

1 . 第3回目パラレルキャリアカフェ学習項目評価

3問1 女性のパラレルキャリアのあり方について理解できましたか。				
	1大変できた	2多少できた	3あまりできなかった	できなかった
%	57.1	42.9	0.0	0.0
3問2 女性のパラレルキャリアの重要性について理解できましたか。				
	1大変できた	2多少できた	3あまりできなかった	できなかった
%	28.6	57.1	14.3	0.0

自由記述回答

- ・立瀬先生が改めてプログラムの目的（地域定着等）を説明されたタイミングが良くてよかったですと思います。
- ・先生方のアドバイスやお話、他の参加者との会話から色々なヒントをいただけた気がします。
- ・いろいろ話しているうちに、「本当に自分でもできそうかも」という気になってくるので不思議です。
- ・グループの方と話していく内に、一人では思いつかなかったやりたいことなどが、思い浮かんできて、とても良い時間になりました。
- ・スタッフの方の発表を聴いたり、グループで話し合ったりする中で、自分の物語のイメージをもつことができました。

結果 3 : プログラムの開発と実証による総合的評価

1 . 第 4 回目パラレルキャリアカフェ学習項目評価

4問1	発表者のプロモーションストーリーに魅力を感じましたか。			
	1感じた	2多少感じた	3あまり感じなかった	感じなかった
%	50.0	50.0	0.0	0.0
4問2	発表者のプロモーションストーリーは、自分のストーリーをさらに			
	1できた	2多少できた	3あまりできなかった	できなかった
%	25.0	62.5	12.5	0.0

自由記述回答

- ・ 皆さんから感想やアドバイスをいただけて、嬉しかったです。また、他の参加者の方々の物語もすごく魅力的で良い刺激をもらえました。
- ・ やりたいことがあってもなかなかできない（できない理由を探しがち）とっててしまいましたが、今回は「どうやったら実現できるか」を考えるきっかけになり、人生をポジティブに捉えられたように思います。地域の方々にもぜひ考えていただきたいテーマだと思います。
- ・ 発表で参加者の人となりが見えた気がした。このように考えるきっかけがあることで、自分がやりたいことの明確化や踏み出す一歩につながったと思う。
- ・ 同年代の方と交流できてよかったです。今回学んだことを今後の人生に活かしていきたいと思いました。

結果3：プログラムの開発と実証による総合的評価

2. パラレルキャリアカフェ総合評価

本日の研修は面白い（または興味深い）内容でしたか。					
	1大変そうだ	2多少そうだ	3あまりそうでない	4不明(欠席)	全体
1回目	22.2	77.8	0.0	0	100.0
2回目	44.4	22.2	0.0	33.3	100.0
3回目	33.3	44.4	0.0	22.2	100.0
4回目	44.4	44.4	0.0	11.1	100.0

2回目以降のワーク学習で面白さや興味深さを体験したものが多いためである

ご自身の担当する市町村での女性の対象者が想像できましたか。					
	1大変できた	2多少できた	3あまりできない	4不明	全体
1回目	0.0	77.8	22.2	0.0	100.0
2回目	0.0	44.4	22.2	33.3	100.0
3回目	0.0	77.8	0.0	22.2	100.0
4回目	11.1	77.8	0.0	11.1	100.0

3回目以降のグループワークを通して改めて所属の市町村での対象が想定できたようである

女性活躍や女性の地域定着について何かしらの事業案が想定できそうですか					
	1大変できた	2多少できた	3あまりできない	4不明	全体
1回目	11.1	77.8	11.1	0.0	100.0
2回目	0.0	66.7	0.0	33.3	100.0
3回目	11.1	55.6	11.1	22.2	100.0
4回目	11.1	55.6	11.1	22.2	100.0

1回目から想定できる人が多く見られたが、最終的な4回目においては約1名が想定できないまま

結果3：プログラムの開発と実証による総合的評価

3. 改善課題

- 女性の捉え方が古い考えに沿っていると感じる場面があった（子育て、育児、介護などどれも男性も参画するのが今の若い世代だと感じたり、また、子どもを産まないという選択や結婚しないという考えもあるので、そういった意識に対する配慮があると良い）。
- プロモーションストーリーを作るのは思ったより時間がかかりそうで、時間配分が難しいように思いました。
- コーディネーターのやり方（話の引き出し方）によって、うまく話を進めてストーリー作りが円滑に進められるかどうか変わってくるように感じました（特に、うまくストーリーを作れない人への対応について）。

特に3つ目のコーディネーターの話の引き出し方については重要な指摘に思われる。今回パラレルキャリアカフェは富山大学のパラレルキャリア研究会という研究スタッフに加え、共催団体であるウェルリブート協議会設立委員会のメンバーがサポートスタッフとして参加した。このメンバーは地域の保健師やキャリアコンサルタントなど人の話を聞くことが本業となっている者が多く、多くは対人支援のトレーニングと実践を経験した者たちであった。話を引き出すスタッフに関しては、対人支援に手慣れた人材を用意する必要があるだろう。

結果 4 : 地域課題に向けた具体的事例の抽出

- 地方における女性活躍・地域定着を狙う支援プログラムでは、単に教科書にあるものや都会で行われている先進事例を提示して、多様な女性の活躍を理解するだけでは、自身のパラレルキャリアをイメージしにくいという課題が存在した。そこで我々は第3回目の「パラレルキャリアカフェ」にて共催である富山ウェルリブート協議会設立委員会の協力を得て、2つの具体的な事例を示し各参加者の理解を深めるというコンテンツを導入した。
- 本プログラムの最終目標である地域活動の充足を伴う女性のパラレルキャリア創造に関する資料を3回目のワークで再提示して意識を促すことで、最終的に参加者から発表されたプロモーションストーリーはすべて地域の何かしらの団体や事業との関連あるものとなった。こうした中でも特に地域における女性のWell-being推進モデルとなる可能性がある優良事例が提出された。
- これらは地域でパラレルキャリア支援を行う際の有用な資料となるだけでなく、富山県の風土や県民性さらには呉西圏域における女性活躍の汎用性の高い事例として多くの人に参考にされるものであると考えられる。

私の、これからの物語

プロモーション物語

家庭

仕事

地域



趣味の旅行から気づいた好奇心旺盛であることや人との出会いを大切にしたいと思う自分の性格を活かして、外の人と地元の人をつなぐ架け橋となることが、私のこれからの人生のミッションだと考えます。

このことにより、自分自身の成長や周囲の人に何か良い影響を与えたり、そこから地域活性へとつながるきっかけになれば幸いです。

まずは、休日に地域の活動やイベントに参加したり、色々な場所を訪れて、地域や人の魅力を発見し、交流を通して様々な人とのつながりを持ちたい。また、地域の魅力を自分の言葉で発信するスキルを養いたい。また、朝や夜のスキマ時間の活用して語学の勉強や知識の習得を目指したいです。

(注) 専門家やアドバイザーの意見によって修正し完成させる。

私の、これからの物語

プロモーション物語

家庭

仕事

地域



市役所の業務は非常に幅広く多岐に渡る「究極のサービス業」だと考えており、多くの市民や職員と関わることで自己成長できるこの仕事を誇りに思っています。私は、業務で培ったコミュニケーションスキルと大好きなお酒の場を掛け合わせ、地域で活用したいと考えました。

そこで、性別、世代、国籍等を超えて交流でき、多くの人が笑顔で過ごせる「居場所」となるお酒の場(スナック)を開設する準備を始めます。

まずは公務遂行を基本とし、対応力やコミュニケーションスキルをさらに磨きます。子どもが小学生となり、生活環境が落ち着いてきたところで異業種交流会や青年会議所のイベント等に積極的に参加し、地域のためのスナック(カフェ)を開くための協力者を探します。

(注) 専門家やアドバイザーの意見によって修正し完成させる。

私の、これからの物語

プロモーション物語

家庭

仕事

地域



多くの動物とふれあうために、預かりボランティアの実施やふれあい広場をつくることを宣言します。

まずは、動物についての経験や知識を増やすため、ボランティア活動の参加やドックトレーナーの資格を取得することが重要だと考えます。

最近、近所で犬を飼い始めた人が増えてきたので、協力者を募り、空き地・空き家を活用した広い敷地を確保し、ふれあい広場を作ることで、動物と人との交流の場だけでなく、人と人との交流の場をつくりたい。

(注) 専門家やアドバイザーの意見によって修正し完成させる。

結果 5 : 地域事業として定着の課題

- 今回、次年度以降の地域での本格始動を想定して、地域における女性活躍・地域定着に資する対人支援プログラムとして「パラレルキャリア」を創造するワークプログラムを開発し、試行した。その際に、各自治体の職員に広く参加を呼び掛けたが、想定よりも参加者が少ない結果となった。
- 参加して初めてパラレルキャリアという概念を知った人がほとんどであった。このことはパラレルキャリアとは何かという情報を事前に伝える必要性があると思われる。
- そこで今回、今後のプログラムの地域事業としての展開を想定し、本ワークプログラムの概要と学習目的を「パラレルキャリアカフェイントロダクション」という動画に編集し、事前にパラレルキャリア支援の概要を理解できるように映像資料を取りまとめた。このことは今後新たな取り組みを地域で展開する、また市民に参加を呼びかけるための有用な資料となると考える。

パラレルキャリアカフェ

主催：富山大学パラレルキャリア研究会

共催：女性のウェルリブート設立準備委員会



「パラレルキャリアカフェ」 イントロダクション

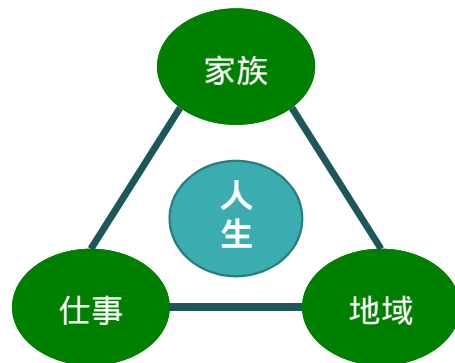
富山大学疫学・健康政策学講座

立瀬剛志

本事業の目的



自分を取り巻く環境の共振化



パラレルキャリア研究会では、若い女性の「パラレルキャリア」を検証し、地域で推進するためのワークプログラム「パラレルキャリアカフェ」を開発しました。これは自治体等での女性の地域定着ワークとしての活用を想定するもので、女性がその生活史の中で地域での豊かな生活のあり方を明確にし、地域にキャリアを埋めこむための支援プログラムです。そしてこのプログラムは単なる就労支援ではなく地域での豊かな暮らしを前提とした実効性の高い地域定着支援と考えています。

パラレルキャリアの必要性

- 女性においては単一のキャリアではなく、家事や地域活動などの「パラレルキャリア」という視点で、個々の生活を豊かにする支援が重要となります。特に、就職・結婚・子育て・家事・介護など生活史における自身のさまざまなキャリアが家庭というものに縛られた生活を余儀なくされる場合に、女性はWell-beingを低下させやすく、地域での暮らしに生きづらさを感じます。
- こうした背景から、どのような生活が自身のWell-beingに繋がるのかという視点にて女性のキャリアを支援します。今回女性の地域定着をWell-beingという視点から調査研究し、若い女性の定着に資する支援プログラムを開発するに至りました。

「パラレルキャリアカフェ」学習テーマ

1. パラレルキャリアって何？

- ・女性のパラレルキャリアの重要性についての理解
- ・女性のパラレルキャリアのあり方についての理解

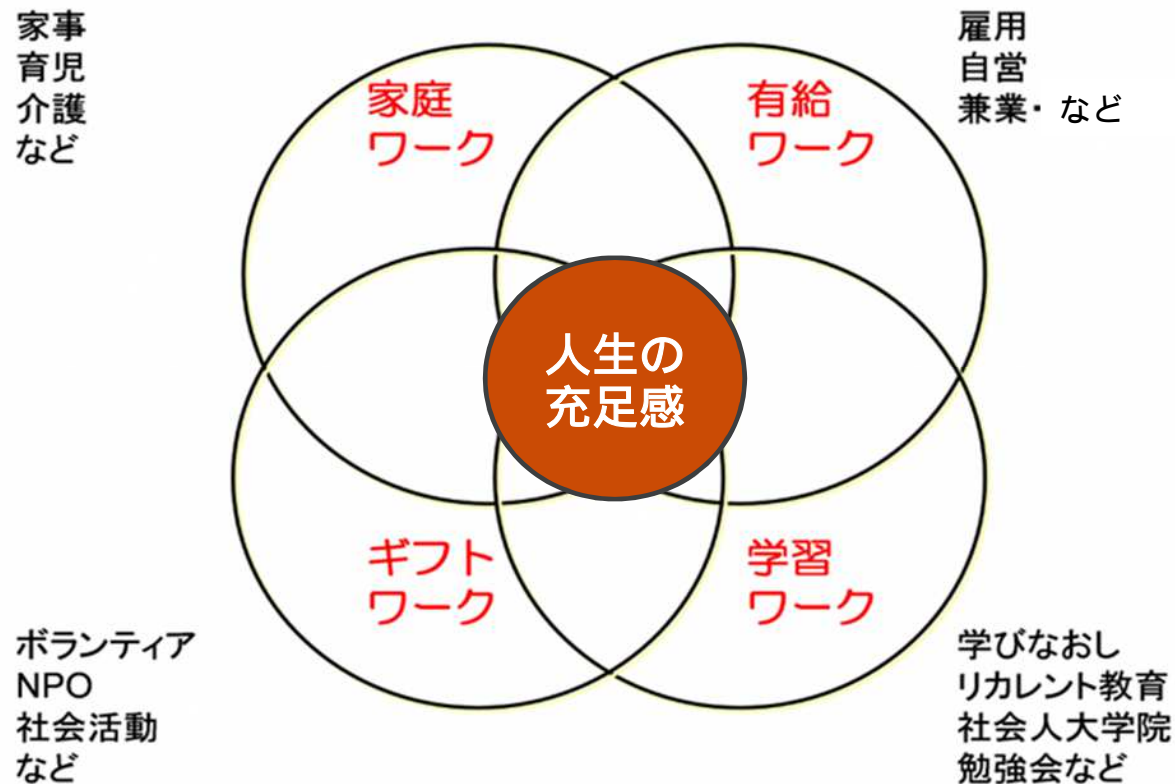
2. ウェルビーイングと パラレルキャリアの興味深い関係

- ・パラレルキャリアとウェルビーイングの関連についての理解
- ・女性のウェルビーイングに必要な要素についての理解

3. プロモーションストーリーで 自分の物語をセットアップ

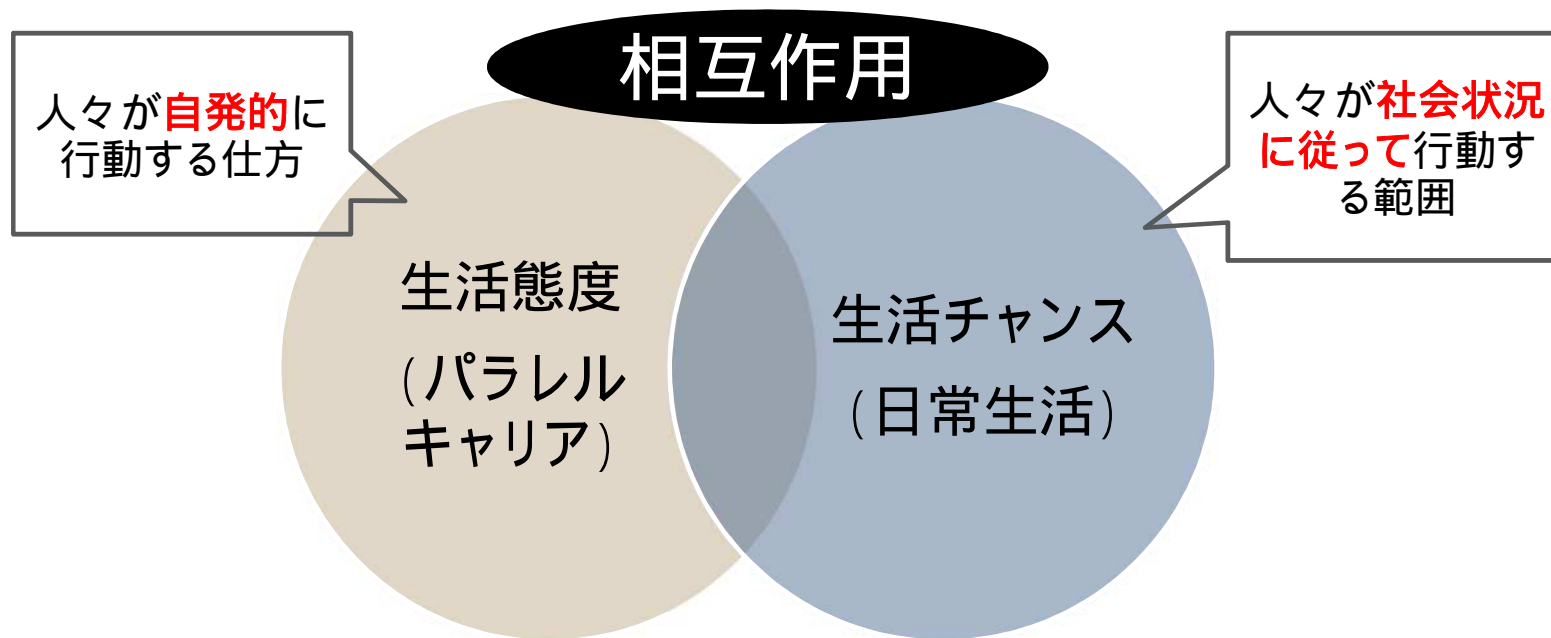
- ・プロモーションストーリーの内容と作成法の理解
- ・他者のプロモーションストーリーへの魅力に共感

パラレルキャリア分類



自己と社会の相互作用 「もう一つの世界を持つ」

マックス・ウェバー



Mildred Blaxter 『健康とは何か』

自律的であることはまず周囲の環境を認めることから始まる

すべての人に健康と福祉を



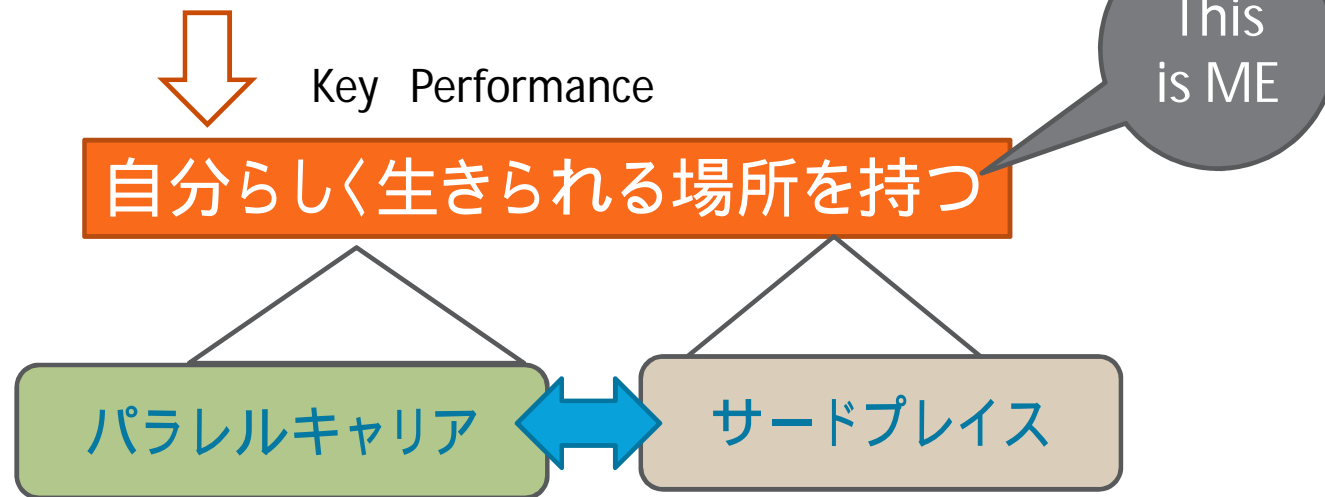
Ensure healthy lives and
promote well-being for all at all ages

➔ すべての人々に健康的な生活を保障し、
安寧(あんねい)の推進を図る。

Welfare(福祉)・Well-being(安寧)・Happy(幸福)

Well-beingの3つの柱

- より良く生きる
- 人との良好な関係
- ものの豊かさからことの豊かさへ



地域コミュニティがパラレルキャリアの鍵！

昨今、地域ではサードプレイスと呼ばれる、家庭(第1の場)でも職場(第2の場)でもない第3の居心地よい場所が増えています。

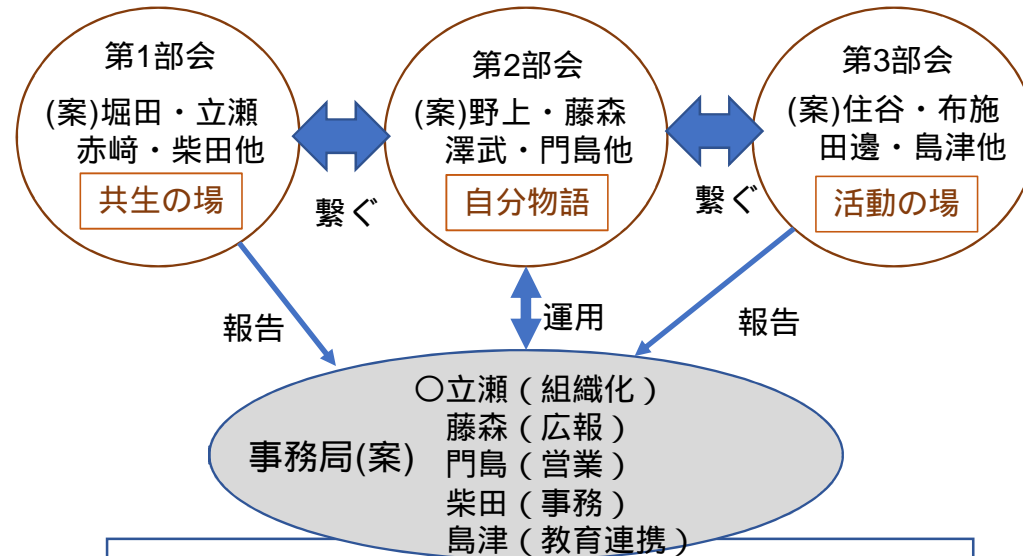
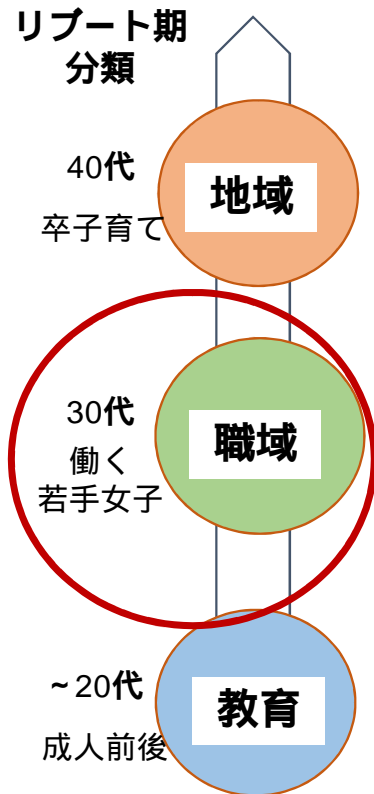
サードプレイスの種類は多様です。コミュニティカフェ、シェアオフィス、コワーキングスペース、こども食堂を運営する場、児童・生徒への学習支援を行う場、生涯学習の場、など枚挙にいとまがありません。

こうした地域におけるサードプレイスの存在は、たとえばミニ起業、身の丈起業という働き方の可能性を増やし、人生の役割の選択肢を広げつつあります。

成人女性のWell-beingを支援する 「ウェル・リブート」協議会(案)



ウェル・リブート活動組織チャート



幹事 藤森(代表)・野上(副代表・第2部会長)・
堀田(第1部会長)・炭谷(第3部会長)・
立瀬
(事務局長)

- ・協議会運用(第3土曜15:30-17:00)
- ・Webリブート部屋(日曜20:00-20:45)
- ・プロモーションストーリー運用

共催団体からのメッセージ

名前

藤森純子

所属

ウェルリブート協議会
設立準備委員会 代表

この場に期待すること

今回、20歳～49歳の女性の地域定着をテーマにしたプログラムを提供することになり、自治体の方々のご参加を得ることになりました。私自身も該当する世代で、提供者であると同時に、自分に照らして考える場をいただいたと思っています。人はコミットすることができる場を持つことができた時に、それを居場所と感じ、愛着を持つことができるように思います。

今、社会は、自治体主導住民参加型の形から、望ましい地域社会の実現を目指して「地域の問題を解決するための社会的な活動」に移行しようとしています。主体的な連携によってアイデアを出し合い、強みを活かして弱点を補い合うことを前提とした Incubate&develop プラットフォームの基盤が生まれたら嬉しいなと思って参加協力しました。

まとめ 1 (総合評価)

- 今回の主な成果は、若い女性の「パラレルキャリア」を検証し、地域で推進するためのワークプログラムを開発したことである。これは自治体等での地域定着ワークとしての活用を想定したもので、女性が自身の環境の中で地域での豊かな生活のあり方を明確にし、地域で新たな役割を生むための支援プログラムであることが示唆された。
- 今回の参加者のアンケート結果から本パラレルキャリア支援プログラム「パラレルキャリアカフェ」は、十分にその有用性が示された。何より知識構成システム論を由来とする「プロモーションストーリー」作成ツールを使用することで、自身のやりたいことを自身が置かれている現状の支援や制御環境を踏まえ考慮した実現可能なパラレルキャリア計画が立てられることが確認された。
- またプロモーションストーリーの参照事例やプログラムのイントロダクション動画も作成したことで、単に知識や概念的な学習ではなくワークも含む実践的な学習を通して、女性のネクストステップを支援する地域定着事業を開発・実装する結果となった。

まとめ2（今後の課題と展望）

今回行ったアクションリサーチによって見えてきた女性活躍・地域定着のためのパラレルキャリア支援プログラム実装のために必要な取組・提案として以下の2つが挙げられる。

パラレルキャリアという概念の周知とプログラム概要を知らせる情報の提供

- 新規性の高いテーマや切り口で地域事業を行う際にどのように住民の関心や興味を引き出すかという点で重要である。今回の検証によって動画によるイントロダクションPVを作成の必要性に至った。今後はこのパラレルキャリア支援の展開のための地域住民への参加呼びかけに加え、企業などの組織単位での支援における説明資料などとして動画を活用することでより広範な理解と参加を呼び掛けることが実施課題である。

地域単位でのプログラムの展開

- 本研究事業はプログラム開発をその中心においた。実際にプログラムに参加いただいたのは地域行政に関わる職員の方々であり、その中から地域でも同様のプログラムがあったら良いという感想や、個人としても大変興味深い体験であったことが、今回の参加者アンケートの結果によって示された。今後は、今回参加いただいた行政職員の方の意見も踏まえ、どのように各市町村で本プログラムを展開していくかについての戦略的な検討がもう一つの課題と考えられる。

パラレルキャリアカフェ(全4回・各80分)

日	タイトル	内容	担当
11/28 (月)	女性のパラレルキャリアとウェルビーイング (みんなでサードプレイスを地域につくる)	パラレルキャリアの基本的な考え方と Well-beingとの関連について学ぶ	立瀬(60M)
		自己紹介	藤森(20M)
12/19 (月)	M(モヤモヤ) to W(わくわく) カフェ (あなたのプロモーションストーリーをつくらう)	自身の想いや思考を統合する知識 創造ツール作成法を学び活用する	中森(30M)
		ワーク	藤森(50M)
1/16 (月)	地域でつながる from M to W 紀行 (地域で暮らす時に大切にすることを考えよう)	サードプレイスを踏まえた地域の パラレルキャリア事例を学び活用する	野上・堀田・ 藤森(30M)
		ワーク(ストーリー深掘り)	藤森(50M)
2/6 (月)	M(モヤモヤ) to W(わくわく) カフェ (未来のためのプロモーションストーリー再考)	「発表会と講評」 地域でのパラレルキャリア展開に向け た表明と意見交換	布施・炭谷 野上・澤武 (80M)

パラレルキャリアカフェ

主催：富山大学パラレルキャリア研究会

共催：女性のウェルリブート設立準備委員会



パラレルキャリアカフェで自身の地域を創る

遠くに行きたければ
みんなでいこう

それでは私たちと一緒に
パラレルキャリアの旅にでかけましょう